

# PBF 定期通信 no.10

2025 年 12 月 12 日発行

## Practical Biosafety Forum : 生物安全実践講習会

発信元 : (一財)機能水研究振興財団 / (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター  
生物安全実践講習会 専門委員会 編集担当 堀田国元・中藤誉子  
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522  
E-mail: pbf@fwf.or.jp  
ホームページ: <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

### 2025 年度 年間スケジュール

2 月 25～26 日

第 7 回 実践コース B

北里環境科学センター(神奈川県)

#### ● Topics ●

生物安全関連情報 :	WHO 厚労省 関連情報	p2
講習会案内	第 7 回実践コース B	p4

### 【お知らせ】

#### 資格認定制度「生物安全技能取得者」2026年3月31 日更新を迎えるみなさまへ

「生物安全技能士」から新呼称「生物安全技能取得者」へ変更となりました。新名称の認定証をご登録先へお送りしております。認定証にて有効期限をお確かめください。

2026 年 3 月 31 日に有効期限を迎える方へ、2026 年 2 月頃に更新のご案内を申し上げます。

更新対象: 認定番号 PBF1-01、02、04、05 で始まる方、PBF3-02、03 で始まる方となります。

#### 生物安全実践講習会のホームページアドレスが変更となりました。

新 URL: <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

お気に入りやブックマークにご登録されている場合は、新しい URL への変更をお願いいたします。

(旧 URL は 404 エラー表示となります)

#### 生物安全実践講習会 専用メールアドレスができました。E-mail: pbf@fwf.or.jp

新アドレスからのメールが迷惑メールと判断され、皆様に届かない事態を防ぐため、pbf@fwf.or.jp から  
のメールを受信できるよう、迷惑メールフィルターやアドレス帳への登録設定をお願いいたします。

#### 講習会広報用動画のご案内

第 3 回実践コース B 開催時に撮影した動画を 5 分間のダイジェストにまとめた動画を講習会ホームページへ掲載しております。ご所属の同僚の方々のほか、関係する方々へも是非ご紹介ください。



## 【生物安全関連情報】

### ◎ WHO 「Enhanced Gonococcal Antimicrobial Surveillance Programme (EGASP) Gonorrhoea treatment optimization, 2024 report」 2025 年 11 月 19 日発表

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240117297>

EGASP：強化淋菌抗菌薬耐性サーベイランスプログラムは、世界的に深刻な問題となっている淋菌（*Neisseria gonorrhoeae*）の薬剤耐性（AMR）を監視し、対策を講じるための国際的な取り組みです。淋菌感染症（淋病）は、世界で最も一般的な性感染症の一つです。かつてはペニシリンなどで容易に治療できましたが、淋菌は驚くべき速さで様々な抗菌薬（抗生物質）に対する耐性を獲得してきました。本プログラムは、耐性傾向の監視、新規耐性の早期発見、治療ガイドラインへの情報提供、公衆衛生対策の強化を目的としています。

定点サーベイランス、標準化された検査法、疫学情報の収集、WHO GLASS との連携をもって、迫りくる「治療不可能な淋病」の脅威に対する世界的な早期警戒システムとして機能しています。今回の報告書（2024 年のデータ）では、WHO の 5 つの地域にまたがる 13 カ国が参加し、最新の人口統計、臨床データ、抗菌薬耐性データが含まれています。

### ◎ FDA サルモネラ汚染疑いにより 135 万個の卵 回収命令 (2025 年 10 月 16 日)

<https://www.fda.gov/food/alerts-advisories-safety-information/fda-advises-consumers-retailers-and-distributors-not-eat-sell-or-serve-recalled-black-sheep-egg>

FDA は、ブラックシープエッグ社の卵加工施設への査察を開始し、採取されたサンプルのうち、40 件のサンプルからサルモネラ菌が検出されました。2025 年 10 月 16 日、テキサス州サンタフェのケンズ・ヘンズ社は、ブラック・シープ・エッグ・カンパニー社から受領したケンズ・ヘンズブランドの 12 個入りパックを、サルモネラ菌に汚染されている可能性があるため、リコールしました。ブラックシープ・エッグ・カンパニーは、2025 年 7 月 9 日から 2025 年 9 月 17 日の間に、アーカンソー州とミズーリ州の他の企業にも卵を流通させており、これらの企業によって卵が再包装された可能性があります。

### ◎ CDC による腸内細菌における抗生物質耐性の蔓延防止への取り組み

<https://www.cdc.gov/food-safety/media/pdfs/arf-enteric-fact-sheet-508.pdf>

「耐性を持つ腸内細菌」（腸に疾患を起こす可能性のある細菌）による感染は、食品、環境、人から人への接触、動物との接触を通じて起こる可能性があります。米国では、特に一般的な腸内細菌である *Salmonella*、*Campylobacter*、*Shigella* の 3 種が、年間およそ 74 万件の抗生物質耐性感染症を引き起こしていると推定されています。これらの細菌は、臨床的に重要な一部の抗生物質に対して耐性を持つ傾向が強まっており、治療の選択肢が制限されつつあります。

### ◎ 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター AMR 臨床リファレンスセンター

#### ◆薬の効かない薬剤耐性菌「MRSA」の皮膚感染症における市中感染型が増加(2025 年 11 月 11 日)

[https://amr.jihs.go.jp/pdf/20251111\\_news.pdf](https://amr.jihs.go.jp/pdf/20251111_news.pdf)

1960 年代に出現した「MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)」は、今なお臨床の現場で大きな課題となっています。かつては院内感染のイメージが強かった MRSA ですが、近年は市中で検出されることが増え、なかには毒性の高いタイプも確認されています。

◆AMR 普及啓発活動:農研機構、日本養豚開業獣医師協会、AgriINFO 株式会社

<https://amr.jihs.go.jp/case-study/020.html>

養豚農場を対象とした抗菌薬使用量の評価システム"PigINFO Bio"と、動物用要指示薬の電子指示書"e-shijisho"、これら2つのシステムは、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）の関わる研究課題内で開発され、現在、"e-shijisho"は一般社団法人日本養豚開業獣医師協会（JASV：The Japanese Association of Swine Veterinarian）がその実証試験に取り組んでいます。

◆AMR 普及啓発活動:東京医科歯科大学病院歯科外来

<https://amr.jihs.go.jp/case-study/023.html>

東京医科歯科大学病院歯科外来における、薬剤師主導のASP（抗菌薬適正使用支援プログラム）活動として、歯科外来で処方される経口抗菌薬の適正使用に向け、歯科医師に対するフィードバックを行ってきました。

## ◎ 感染症エクスプレス @厚労省

◆令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症(ARI)総合対策

<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2025.html>

インフルエンザや新型コロナウイルス感染症をはじめとする、今冬の急性呼吸器感染症（以下「ARI」という。）の流行に備え、「令和7年度 ARI 総合対策」を取りまとめ、国や地方自治体がARI対策に取り組むとともに、広く国民の皆様はARIに関する情報を提供し、適切な対応を呼びかけることといたしました。

令和7年度 急性呼吸器感染症（ARI）総合対策に関するQ&A

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/QA2025.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/QA2025.html)

◆薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告書 2024 サマリ版(厚生労働省)(2025年4月14日)

<https://h-crisis.niph.go.jp/wp-content/uploads/2025/04/001466659.pdf>

NAOR サマリ版では、2011年以降蓄積されてきたNAORのデータの中から注目すべきデータを抜粋し、わかりやすいイラストや図を中心にまとめており、2020年や2027年の目標値との比較や各種サーベイランスの状況などを容易に把握できるようになっています。

◆エイズ予防指針、性感染症予防指針を改正

エイズ予防指針 <https://www.mhlw.go.jp/content/001593105.pdf>

性感染症予防指針 <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001595214.pdf>

厚生労働省は11月10日に「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針」（平成30年厚生労働省告示第9号）及び「性感染症に関する特定感染症予防指針」（平成12年厚生省告示第15号）を改正しました。

◆新型コロナウイルスについて(<https://www.mhlw.go.jp/content/001604660.pdf>)

2025年第48週（11/24～30）における定点当たり報告数は、1.44（報告数5,552件）

◆インフルエンザウイルスについて(<https://www.mhlw.go.jp/content/001604838.pdf>)

2025年第48週（11/24～30）における定点当たり報告数は、44.99（報告数173,380件）



～病原微生物の取扱い・管理者のための公益事業～

# 生物安全実践講習会



## 第7回 実践コースB

2026年2月25日(水)～26日(木)

会場: 北里環境科学センター/北里大学(神奈川県相模原市)

病原微生物の取扱い・管理のために必要な  
法令を含めた先進的知識と技術について  
座学と実習により体系的に学べる講習会です

講師は、豊富な知識と経験を持つ国公立機関・大学等の  
専門家や企業の実務エキスパートが担当します。



主催共催



公益財団法人  
ルイ・パストゥール医学研究センター



一般財団法人  
機能水研究振興財団



一般財団法人  
北里環境科学センター

第7回実践コースB概要は  
こちらからご確認ください

問い合わせ先: 生物安全実践講習会事務局  
(一財) 機能水研究振興財団内

TEL: 03-5435-8501 E-mail: kinousui-zaidan@fwf.or.jp  
<https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

